

【トラック1 敗北勇者はアナル処女を奪われ、淫紋を付与される】

いい眺めじゃのう、勇者よ。

全裸で、足も手も鎖で繋がれ、処刑を明日に控えた気分はどうじゃ。

仲間たちの処遇か？

順に貴様と同じところに送ってやるから、気にせずとも良い。

暴れても無駄じゃ。

我（われ）に勝負を挑んだ愚かさを悔い、おのれの負けを認めよ。

貴様ら人間ごときが大魔王たる我、リリース・ローデルハートを倒せるとでも思ったか。知っての通り、絶大な魔力を持つ我は、生まれて数百年負けなしよ。

幼く見えるか？

ふふ……。貴様ら人の子には想像もつかぬような年月を生きておる。

世界を救う勇者一行などともてはやされていたみたいだが、

せいぜい百年ほどこしか寿命のない人間どもが我に敵うわけがなからう。

ハッ。まだそんな戯言を抜かす元気があったとはな。

何度挑もうが、貴様は我には勝てぬ。

そこまで言うのなら、分らせるしかないな。

いかに人間が無力で矮小な存在であるか、とくと思ひ知らせてやろう。

我のコレで、な。

感じるじゃろう、貴様の足の辺りに硬いモノが当たっているのを。

知らなかったのか？

魔族の女は、半数以上がふたなり。

まんこはもちろん、ちんぽもついておる。

人間よりもずっと巨大で、凶悪なちんぼがな。クク……。

これから我のふたなりちんぼで、貴様を犯すのじゃ。

ありがたく思え。

処刑の前に、

偉大なる大魔王リリス・ローデルハートが直々にメスとしての喜びを教えてやる。

何を言っておる。

男にもいれる穴はあるじやろう。

ここに、な。

暴れても無駄だと先ほど言うたばかりなのに、こりないやつじゃな。

尻の穴を少し指で触られたぐらいで、そう暴れるでない。

これからもっと太く大きなモノを体内に受け入れ、貴様はメスになるのじゃぞ。

今からそんなことでどうする。

ん……。

もしかして貴様、勃起しておるのか？

フツ、ククク。

口ではどれだけ我を罵っていても、身体は正直よのう。

憎い敵の乳房（ちんぽ）を胸板に押し当てられ、女を感じるとはな。

人間でいうと……、Fカップだったかの。

それなりに大きい方なのだろう。

屈強な男の身体を持つ貴様よりもずっと華奢で白く、豊かな乳房を持つ我に興奮するのも、致し方ないこと。

我のまんこに、コレをいれたいのか？

フフ。そのようなことを言うても、貴様のちんぽはどんどん硬くそそり立ってきておるぞ。

しかし、勃起しても、私のちんぽには遠く及ばぬ。

勇者ともあろう者が情けない。

私の半分ほどのサイズしかないとはな。

やはり所詮は人間よ。

勇者というから多少は期待したが、種馬にもならぬわ。

やはり人間どもは肉便器にするか、魔族の子を産ませるほか使い道がないな。

なんだ、そのような顔をして。

いきそうだったのか？

わかった、わかった。

今イかせてやるから、しばし待て。

オスとしてではなく、メスとしてだがな。

催淫。

どうじゃ、私の催淫魔法は。

通常なら濡れない男の肛門も女のまんこのように濡れ、感じるようになる。

ハハハッ。さすがの勇者様も、私の催淫魔法の前には手も足も出ぬか。

初めて肛門に指をいれられたというのに、女のように喘いでおるわ。

ほれ、見やすいように貴様の右足を掲げてやろう。

とくと見るがいい。

処女のくせにあっさりと私の指を受け入れて、簡単にズブズブと飲み込んでいっておるぞ。

人間どもの尊敬する勇者様が、まさか尻に指を突っ込まれて喜ぶ淫乱だったとは、

誰も思うまい。

なぜ目をそらすのじゃ。

まあ、直接見なかったとして、

おのれの身体がどのようなになっているのかはよく分かっているだろうがな。ククク……。

しかし処女とはいえ、随分と締まりの良いアナルじゃのう。

催淫魔法でとろけた尻肉が、私の指に吸い付いてくるわ。

ああ、ちんぼがたぎってきた。

ちと早いかもしれぬが、もう辛抱出来ぬ。

いれるぞ。

そんなに手を振っても無駄だと、何度言ったら分かるのじゃ。これで三回目じゃぞ。

貴様を繋いでいる鎖には、たつぷりと私の魔力を練り込んでいる。

我に完全敗北した貴様では、この鎖から逃れることは到底無理な話。

手も足も鎖に繋がれ、右足を我に抱えられ、

さらには催淫魔法でアナルをトロトロにされた状態で、どうやって逃げ出すと言うのじゃ。

諦めて、我に処女を捧げよ。

うつ、く、はぁ……っ。

キツイな。予想通り、締まりが良い。

クツ、クハハ。そうであろう。

貴様ら人間どもが忌み嫌っている魔族に犯され、

処女を散らすことになるとは思ってもよらなかったであろう。

じゃが、我はとても気分が良いぞ。

これまで抱いたどの魔族よりも、人間よりも、具合が良い。

魔王のちんぼの侵入を必死で食いとめようと、貴様の処女アナルが抵抗してくるわ。

腐っても勇者というわけじゃな。

しかし、私の前では無意味なことよ。

貴様の尻も、すぐに大魔王のちんぼに情けなく媚びる、あわれないケツマンコに成り下がる。

貴様よりもずっと大きなちんぽで尻を犯されるのは、どんな気持ちじゃ？

大魔王の私のちんぽを全て受け入れるのは人間の身体では辛いかもしれぬが、勇者の貴様は平気じゃろう？

女みたいな声を出して、そんなに気持ちいいのか。

世界を救う勇者様が、情けないのう。

力でも女の私に完全敗北しただけでなく、ちんぽでも負けて、男として恥ずかしいのか？

私の催淫魔法のせいだけではないじゃろう。

ちんぽだけでなく、乳首までしっかりと勃たせて。

硬くたくましい胸板にちょこんとついた小さな乳首。メスとしての快感に目覚め、いじってほしそうに勃起しておる。

女と同じように、貴様の乳首も触ってやる。

まずは右の乳首から……

くにつ、くにくにくに、ふに、ふにふにふに。

ふ……

少し触っただけで、どんどん硬くなってきたおるぞ。

れろっ、れろお、れろれろれろれろ。

乳首をいじめながら耳をなめていたら、ますますいやらしいメスの顔になってきたのう。

もう少し強めにしてやったら、どうなるのかの。

くりっ、くりくりくりくり、コリコリコリコリ。

こうやって乳首をいじりながら……

はむっ、はむはむ、かぶっ。

ちゅっ、ちゅぱっ、ちゅるっ、れろお。

そんなに卑猥な顔で女みたいな声を出して、まるで淫魔だな。

何を言う。

貴様よりも小柄で可憐な大魔王のちんぽをケツマンコでしっかりくわえこみ、オスちんぽはビンビン、乳首と耳をいじられるたびに大声で喘ぐ。

今の貴様は、淫魔そのものじゃないか。

左の乳首も、触ってほしそうにしておるの。

今度はこつちをせめてやる。

ふに、ふにふに、ふにふにふにふに。

れろ、れろお、れろれろれろ。

ほゝれ、こつちの乳首も硬くなってきた。

れろお、ぐちゅっ、じゅるっ、くちゅ、ぐちゅぐちゅ…。

とどめじゃ。

電撃、振動。

尻の中のぶっくりしている部分に微弱の電撃と振動を与え、

貴様の前立腺を強制開発してやろう。

催淫魔法でとろけた処女アナルを極太ちんぽでミチミチと押し広げ、

電撃と振動魔法で集中して攻め続けてやれば、

未開発の前立腺さえひとたまりもないはず……。

ああっ、しかし、これは、ちときついな……っ。

我のちんぽにも刺激がきて、くう……っ。

……うっ、締まるっ。

貴様……、イきおったのか。

ハア、ハア……っ、否定しても無駄じゃ。

貴様のケツマンコがキュウキュウ収縮しておるからの。ん、くう、ふう……。ハハ、イきおったな。

憎い敵のちんぽでアナルを初めて犯されて、乳首と耳と前立腺を責められながら、メスイキしたのか。

立っているのも辛くなったのか？

鍛えられたたくましい左足が震えておるぞ。

それだけ筋肉がついておっても、今となってはただの飾りに過ぎぬな。

右足を持ち上げられ、片足だけではおのれの体重を支えるのもきつくなってきたじやろう。

可哀想にの。倒れたくても鎖で繋がれておるから、それさえも出来ぬ。

立ったまま処女を犯すのは、少々酷だったかもしれぬな。

フツ。まだそのような口がきけるのか。

それならば、遠慮なく犯させてもらおう。

貴様のへらず口がいつまでもつか、みものじゃな。

はあ、はあっ、ほれ、どうした。

敵にアナルを犯されているのに、気持ち良さそうに喘いで。情けない勇者じゃな。

う、くっ、はあ、今の貴様、淫魔のメスそのものじゃぞ。はあ、はあ。

いや……、

淫魔よりもいやらしいかもしれぬな。

自分よりも小柄な女に極太ちんぽをぶち込まれて、

ケツマンコをヒクヒクさせて喜ぶ淫乱なメス勇者。

んくっ、お、おお……っ、

敗北まんこがキツく締め上げてくる……っ。

簡単にメスイキするよわよわ雑魚勇者のくせに、生意気なまんこじゃっ。

はあ、我に勝てると思うたのかっ、はあはあ、あ、あああっ、いくっ、いくっ、
あ、ああっ、くうう、いく、いく、人間のまんこの中につ、勝利ザーメンっ、
くっ、ううっ、ああっ、くっ、あ、ああ、いく、いく、出す、出すぞ、
貴様のあわれなケツマンコにたっぷりと私の崇高な精液を出してやる……っ。

はあっ、人間ごときではとても敵わない濃厚ザーメン出されて、敗北の味をとくと味わえ。
ああ、あーっ、ハア、ハア、うっ、出すぞ、貴様の、処女まんこの中につ、
私の、精子をつ、ハアハアハア、出る、出る、いく、いく、いくぞ、あ、ああっ、ああっ、
いくっ、いぐ、出る、出る出る出る、……おっ、ああああああ（絶頂）

ふう、はあ、はあ……。

どうじゃ。たかが人間ごときでは、大魔王リリス・ローデルハートには到底かなわぬと、
これでわかっただろう。

……フツ、フハハ。

女に処女を散らされ、男の尊厳を奪われてもなお、まだ我に刃向かうか。
敵ながら、なかなか骨がある。

ふむ、どうしたものか。

予定通り処刑しても良いが、
貴様のように凛々しく、自信に満ち溢れたオスのプライドをへし折り、
メス奴隷に落とすのも悪くない。

処刑はやめじゃ、淫紋付与。

ほれ、貴様の下腹部を見てみよ。

ここに、女の子宮のような形の卑猥な赤い紋様が刻まれておるじやろう。

これで貴様は淫魔のメス以上にちんぽを求めてやまない身体になった。

大魔王の我がいつでも好きな時に使える性奴隷になったのじゃよ。

どうじゃ？ 嬉しいか？

フツ。ハハハ！ 強がっておられるのも、今のうちだけ。
じきに我のちんぽがほしくてほしくてたまらなくなる。

手足に枷（かせ）をつけて、これから我の部屋で性奴隷として飼ってやる。
反抗心を捨てたら、枷を外してやるからな。
貴様が自ら股を開き、懇願する日が楽しみじゃのう。

【トラック2 恋人を寝取られ、復讐を誓うみじめな勇者】
いい子にしておったか？

おっと、これは失礼。
お楽しみ中だったのか。

しかし、勇者様が床オナとはな。
ベッドにうつ伏せになり、ヘコヘコと腰を揺らして、無様な姿よのう。

手足に枷をつけられ、オナニーさえもろくに出来ぬのは、
淫紋を付与された身体ではつらからうな。

どうした？ 腰が止まっておるぞ。
我のことは気にせず、続けるが良い。

もっと貴様と遊んでやりたいんじゃが、我も忙しい身でな。
貴様が我に忠誠を誓うのなら、この部屋からも出してやれるし、
昼間ももっと遊んでやれる時間が増えるのじゃが。

フツ、ハハ。
あくまで忠誠を誓う気はないか。
それでは、まだ枷を付けておかねばな。

さて、いつまで我慢が続くのか……。

そうそう、今日は貴様に良い知らせがあるぞ。

貴様たち勇者パーティーが我に負けてから、二週間。

ついにわが魔王軍がこの大陸の人間どもを制圧したのじゃ。

服従の証（あかし）として、王国の姫を差し出させ、我の重臣に嫁がせた。

そう興奮するな。

いきなり起き上がって怒鳴っても、四つん這いで尻を向けては全く迫力がないぞ。
枷をつけておるから、体勢を変えるのも一苦労だろう。

分かったから、少し落ち着け。

まあ、無理もないか。

貴様と姫は、婚約しておったのじゃからな。

しかし、貴様……

婚約していたのに、一度も手を出していなかったのじゃな。

さっさと抱いておけば良かったものを。

魔王の我を倒してから、とでも思っておったのか？

モタモタしておったから、姫は魔族の太い肉棒で処女を奪われるハメになった。

破瓜（はか）される時、泣きながら貴様の名前を呼んでいたそうじゃぞ。可哀想にのう。

くくっ、なんとでも言え。

女を寝取られた負け犬の遠吠えにしか聞こえぬわ。

ついでに貴様の仲間たちの処遇も教えてやろう。

女魔法使いと女僧侶は、姫と同じく魔族の男に嫁がせ、

男武闘家はふたなり魔族の性奴隷にした。

処刑するつもりじゃったが、有効活用しようと思つての。

不思議なことに、魔族同士が子をなすよりも、

人間に子を産ませた方がなぜか優れた魔族が生まれやすい。

なに、貴様の人間ちんぽよりも、魔族の極太ちんぽの方がずっと女どもを満足させられる。

貴様の婚約者だった姫も、我に情けなく負けた仲間たちも、

今頃私の配下たちに抱かれ、よがり狂ってるはずだ。

姫が呼ぶのも、すぐに貴様から魔族の夫の名前へと変わる。

魔王の我ほどではないものの、手配した部下たちは魔族の中でも選りすぐり。

姫と仲間たちは魔族のちんぽに溺れ、種付けされ、強い子を産むじやろう。

この大陸は魔族が支配したとはいえ、

いつ他大陸のゴミどもが攻めいつてくるか分からぬからな。

私の精鋭たちには到底敵わぬだろうが、念には念をというわけじゃ。

貴様の仲間にも元婚約者にも、毎年のように子をなしてもらわねばな。

フ……っ。

そのように我を罵っても、まるで説得力がないな。

貴様のちんぽは萎えるどころか、ますます硬くなってきたおる。

いとしの恋人の処女が魔族に散らされる姿を想像して、興奮したのか？

それとも、背中に押し当てられた私の乳房と髪の毛の方か？

長い髪と柔らかい乳房の感触で女を思い出し、久方ぶりに女を抱きたくなったのだろう。

一週間以上毎日アナルを犯されても、まだオスとしての本能が残っておるのか。

否定せずとも良い。

これだけ密着しておるから、私の乳首の感触まで分かるはず。

Fカップの白い乳房を揉み、薄桃色の乳首をこね回したいのじやろう。

こうやって……

ふにふに、とな。

ふにふにふに、ふに、くりくりくり、くりくりくり。

れろお、じゅる、じゅっ、じゅるるっ。

フフ。

耳と乳首を責めながらちんぼをしごいていたら、

亀頭からどんどん我慢汁が溢れてきた。

姫が貴様の痴態を知ったら、さぞがっかりするじやろうな。

貴様のために大切にとっておいた貞操を敵に奪われ、

信じて待っていた勇者様は魔王に発情して浮気勃起……。

ああ、なんて可哀想な姫君。

愛した勇者様は、ちんぽだけではなく、左の乳首も……、

右の乳首も、敵の目の前でいやらしく勃起させておるなんてな。

こうやってくるくと乳輪をなぞってやるだけで、

フ……。

どんどんがってくる。

くるくるくる、くるくるくるくる……。

ほれ、触ってほしそうに乳首が主張してきたぞ。

ふに、ふにふに、ふにふに、くにっ、くにくにくにくに。

じゅっ、じゅるるっ、じゅるう、じゅっ、れろお、じゅる……。

婚約者以外の女に耳舐め乳首責め手コキされて、

乳首もちんぼもガチガチにしておるのか。

浮気勇者さ・ま♡

れろお、じゅっ、じゅるるっ、じゅう、じゅっ、れろお、じゅる……。

アへ顔で我を罵りながら、金玉袋をパンパンにして、まもなく浮気射精するのじゃな。

イけ、出せ。

浮気射精してしまえ。

ほれ、イけ。いくのじゃ。

遠慮はいらぬぞ。

イけ、イけ、イけ……♡

敵の手でしごかれて、みっともなく精子を撒き散らかす浮気射精。
ずいぶん気持ち良さそうじゃな。

しっかりと目を開けてみよ。

黒いシーツの上に、ねっとりとした白い精子が溜まっておるぞ。

しかし、こんなにたくさん出したのに、
貴様のちんぽは全く萎えておらぬな。

どうやら、まだ足りないともえる。

コレを我のまんこの中にいれたいのか？

それとも……、

ちんぽじゃなくて、アナルを責めてほしいのか？

貴様のアナルの中、ぐちゃぐちゃじゃな。

いくら淫紋を付与しているとはいえ、

まだほぐしてもいないうちからここまでドロドロにしているヤツは、なかなかおらぬぞ。

こんなに濡らして……。

昨晚もたっぷり可愛がってやったから、

日中も我のちんぽが恋しかったのじゃろう。

本当は、ちんぽよりも、まんこで気持ち良くなりたかったのじゃな。
恋人と同じく、魔族の極太ちんぽをぶち込んでほしかったんじやろう。

止めなくていいのか？

我が少しでも腰を動かしたら、ケツマンコの中にちんぽがずっぷりと入ってしまうぞ。

フ……ツ。

なんだ、そんなに我慢ならぬのか。

言い訳しても無駄じゃ。

自ら尻をグイグイ押しつけてきておるんじやからな。

リクエストに応えて、いれてやろう。

ずっぷりと、奥まで、な。

んっ、くうう、いつ突っ込んでも貴様のまんこは、キツキツじゃな……っ。

ん、あ、はぁ……っ。

今頃姫や仲間たちも、魔族に犯されているだろうな。

貴様と同じように四つん這いの状態で、

後ろからぶっといちんぽをいれられているかもしれないぬ。

姫とは思えないほどにはしたない声をあげて、何度も絶頂しておるんじやろうな。

それとも……

案外自分から魔族ちんぽにまたがって、夫の上で腰をふりまくっているかもしれないぞ。
巨根ちんぽの虜になり、マン汁垂れ流しの獣交尾♡

ハア、ハア……っ。

フフ、何を言っておる。

貴様も獣のようになっておるぞ。

貴様の場合は、獣というよりも淫魔か。
後ろからズンズン突く度に嬌声をあげて、
淫魔も顔負けの淫乱じゃな♡

ん、あ、う、はぁ……っ。

魔族ちんぽの味を覚えた姫も、
こうなるのは時間の問題。

う、く、ハア、ハア……っ。締まるっ。

ん……？

クク、ハハ………！

これは恐れ入った。

尻を犯され、メスイキしながら、復讐を誓うとはな。

いいんじゃないぞ？

もっと思いつきメスアクメをキメても。

ケツ穴に魔族のデカちんぽ突っ込まれて喜ぶ、変態メス勇者様♡

……っ！

う……っ。あ、ハア、ハア……っ。

ケツマンコの中、うねりっぱなしじゃぞ。

はぁ、はぁ、う、ああ……

ちよっと中を突いてやっただけで、面白いくらいにイキおるな。
そんなことでどうする。

我に復讐するんじゃないかったのか？

力でも負けて、セックスでも負けて、
どうやって我に勝つ気じゃ？

はぁはぁはぁ、ぁぁ、はぁ……っ。
ほれ、言うてみよ。

う、おっ、おお、う、ぁぁ、はぁ……っ。
アクメをキメる数では、到底貴様には敵わぬな。
フフ、そこだけは、負けを認めてやっても良い。

はぁ、はぁ……っ。
まだ復讐する気概が残っているのなら、
この淫乱どすけベケツマンコで、我を倒してみせるか？

う、ぁぁ、ぁぁ……っ。
ほれ、ほれ、もっとマンコを締めて、敵から精子を搾りとってみせよ。

はぁ、はぁ、どうした……っ。
敵にやられっぱなしで良いのか？
ん、んっ、ぐっ、このままでは、
いつまでも一方的にやられるだけじゃぞ。

ぁ、ぁぁ、うう、はぁ、はぁ、ぁ、ぁぁっ、うう、いく、いくっ、ぬうう……っ！
ふう、はぁ、出そうじゃった。
我は耐えてみせたぞ。

貴様はどうだ。はぁ、はぁ……っ。
復讐するどころか、敵にイカされっぱなし。
威勢が良いのは口だけじゃないか。
ん、ぁ、ぁぁっ、ほれ、どうした。
反論も出来ぬか。う、はぁ、はぁっ。
何とか言ってみたらどうじゃ……っ。
貴様の口から出るのは、いやらしいぁえぎ声だけか？ はぁ、はぁ……っ。
ぁ、ぁぁっ、ほれ、もっとがんばれ、ぁ、んっ、
まだまだ踏ん張れるじゃろう。

ふう、あ、ああっ、我を、失望させるな……っ。
腐っても、勇者じゃろう。はあ、はあ……っ。

ん！？ お、おおっ、き、急に締めつけおって……っ。

う、ああっ、はあはあ……っ！

まだ、我に挑む気があったか。

……フ、ハハ。ハアハアハア……ッ！

良いだろう。ハア、ハア……ッ。

その心意気を買って、我も手加減なしで応えてやろう。

う、うぐっ、あ……っ、はあはあ……っ！

おっ、おほっ、おっ、ふお、おっ、おおっ、あ、お、おおっ、いく、出る、出る、
はあはあ、……っ、魔力の、たっぷり詰まった、魔王精子っ、いつ、てき、残らず、
出すぞっ、貴様の、中につ、あ、ああああっ、ううんっ、あっ、はあ、いくっ、
あっ、ああっ、ふう、はあ、くうう、おっ、あ、ああああ……っ！！

……はあ、はあ。ふう。

濃厚な精子を流し込まれ、ほうけておるのか。
しかし……

最後の締めつけは良かったぞ。

勝ち目などないのに、貴様は粘り強くて良い。

どこまでも我を楽しませてくれる。

だからこそ、徹底的に男としての尊厳を奪ってやりたくなるのじゃ。

【トラック3 寝取られ勇者は子宮を生成される】

なんじゃ。まだ床に生やしてやったデイルドで遊んでおったのか。

しゃがみ込み、尻にデイルドをくわえて、アナニー。

ずいぶん楽しそうじゃな。

フツ、ハハ……。

貴様の意思ではないと言うのか。

いくら手足に枷（かせ）がついているとはいえ、

デイルドからどくぐらいは出来るであろう。

縛りつけているわけでもあるまいに。

極太魔王ちんぽの形になり、ぽっかりと広がった尻穴が寂しかったんじやろう。

三月（みつき）以上もの間、毎夜毎晩抱かれ、すっかり作り替えられてしまった身体では、無理もあるまいが。

フフ……。ちんぽをビンビンに勃たせながら言っても、迫力がないぞ。

へコへコと腰を動かして……、

そんなに射精したいのなら、自分でちんぽをしごけば良いではないか。

ん？ ……ああ。

枷をしておるから、手が使えぬのか。

ハハハ！ 情けない顔だのう。

床に生えたデイルドは、我のちんぽよりもずっと細く、小さいから、物足りないのだろう。

加えて、手は枷がつけられていて、オナニーも出来ぬ。

けつまんこも、ちんぽも、消化不良だったのじやろう。

何度も小さくイッて、それでも我が与えてやるような大きな快感を得られず、

下腹部の淫紋がうずいてうずいて……。

無様にデイルドアナニーを続けるしかなかったのじやな。

我に服従するのなら、手の枷を外してやっても良いのだぞ。

思いきりしごいて、存分に射精しろ。

そのあと、我のちんぽをトロトロけつまんこに挿れてやる。

なんだ、その反抗的な目つきは。

まだ自分の立場が分かっていないようじゃな。

それならば、枷はそのままじゃ。

ちんぽも挿れてやらぬ。

フッ……。

やはりちんぽを挿れてほしいのか？

今さら遅い……、と言いたいところではあるが、

我は優しいからのう。

服従せぬのなら、枷は外してやれぬが、

代わりに……。

我の素足で、貴様のちんぽをしごいてやる。

ほれほれ、どうじゃ。

小さくて柔らかい女の足でしごかれ、気持ちが良いじゃろう。

二十センチのヒール付き特注ブーツで培われた、完璧なハイアーチはどうじゃ？

よく発達した土踏まずでちんぽをぎゅっとされたら、たまらないはず。

はじめな足コキでちんぽをますます大きくさせて、敗北射精しても良いのじゃぞ。

みっともなくディルドを尻に挿れたまま、精液を床にぶちまけよ。

フフ……。

足コキではいけぬか。

では、これはなんじゃ？

貴様のちんぽの先から溢れたいやらしい汁で、我の足の裏がヌトヌトになっておるぞ。

こうやって……、

亀頭の辺りを足で撫でてやると、ちんぽがビクビクと震えるな。

もっと強くしごいたら、すぐにイッてしまいそうじゃ。

そうか。

では、貴様がどれだけ耐えられるか、試してみるか。

勇者様のちんぽは強いから、こんな足コキではイかぬのじやろう。
足の裏で強く挟まれて、シコシコしてやっても、何も感じないはず。

しかし、おかしいな。

足で撫でるたびにちんぽが膨張して、絶頂直前の硬さと大きさになっておるが。
ヌルヌルグチャグチャとすごい音じゃぞ。

まさか……、

敵である魔族の足でしごかれて、興奮してしまう不屈な勇者はおらぬよな。

一国（いっこく）の姫君（ひめぎみ）を抱こうとしておった勇者が、

足コキでちんぽをバキバキにさせて、みじめに床に精子をぶちまけるような、
よわよわちんぽなはずがない。

足の指でカリのところを丹念に撫でて、シコシコしても、
このちんぽは射精しないはず……。

フツ、ハハハハハハ！！

どうしたのじゃ、ヒイヒイ喘ぎながら、腰を揺らして。

自分で気づいておらぬのか。

ケツマンコにささったデイルドを何回も抜き差しして、メス顔になっておるぞ。

イキたくてイキたくて仕方ないのだろう。

いいぞ、イッてしまえ。

ケツマンコでも、ちんぽでも、好きな方でイけ。

そのままデイルドアナニーしながら、我の足コキでイけ。敗北精子を撒き散らせ。

どれ、貴様のアナニーを手伝ってやろう。
振動。

ハハ、すごい声じゃな。

ケツ穴の中でデイルドが勝手に動いて、気持ちがいいのう。
尻もちんぽも責められ、絶頂間近。

あと一分……、いや、せいぜい三十秒といったところか。

そうか、では本当に三十秒射精を我慢出来るか、我がカウントしてやろう。

三十、二十九、二十八、二十七、二十六、二十五、二十四、二十三、二十二、
二十一……。

ちんぽをこんなに膨らませて、限界が近そうじゃな。

まだ二十秒もあるのに、大丈夫かのう。

二十、十九、十八、十七、十六、十五、十四、十三、十二、十一……。

がんばれ、がんばれ、もう少しじゃぞ。

世界を救う勇者様なら、あと十秒耐え切れるはず。

十、九、八、七、六、五、四、三、二、

ここまで耐えたなら、我慢できるな？

一……、

ゼロ♡

クク、我慢できておらぬぞ。

あれだけ威勢の良いことを言っておったのに、どっぴゅどっぴゅ勢い良く射精し、
尻からマン汁もダラダラ垂らして…。

けつまんことちんぽ、同時絶頂でもしたのか？

デイルドをくわえこんで離さない淫乱ケツマンコだけじゃなく、
貴様はちんぽまでよわよわの雑魚じゃのう。

すべて淫紋のせいじゃと？

ハハ。そういうことにおかねば、勇者としてのプライドが保てぬものな。
足でしごかれてあっさりと射精するようなレベル一のちんぽじゃ、

姫もすぐ飽きていたに違いない。

もし貴様が姫を抱いていたとしても、

いずれは魔族のつよつよちゃんぽに寝取られていたじゃろうな。

くっ、ふははっ。

魔王の我に抗うことも出来ず、

毎晩尻を犯されて喘いでいるみじめな男がどうやって姫や仲間を助けるというのじゃ。

貴様はもう、世界を救う勇者などではない。

私の気が向いた時に犯されるだけのメスなのじゃ。

ふむ。

みつともなく床に精子をぶちまけ、アナルにデイルドがささった状態でも、なお折れぬか。

男の尊厳を奪われ、メスとして調教されても、

まだ勇者として世界を救うつもりなのじゃな。

やはり、貴様は面白い。

期待以上じゃった。

貴様のような男を、ずっと探しておったのじゃ。

淫乱な肉体と不屈の精神を持つ男を、な。

そのような男をメスに堕とし、永遠の忠誠と愛を誓わせたら、どれほどの至福だろうか。

勇者よ。

私の妻となり、子を産め。

フフ……。

私の前では、男でも女でも関係あるものか。

子宮付与。

勇者だったことなど、もう忘れろ。

魔族に寝取られた姫も、かつての仲間たちも、貴様を慕っていた人間どもも、
全て記憶から消せ。

世界は我にまかせておけば良い。

貴様の役目は、私の妻となって愛され、魔王の遺伝子を引き継ぐ強い子を産むことじゃ。

【トラック4 ついに完堕ちする勇者】

淫紋も子宮も付与し、乳首もケツマンコも、貴様の身体はどこかしこも調教してやった。
たくましい勇者の身体つきのまま、すっかりメスの快感を覚えた肉体も攻略済み。
どれだけ抗っても、心が堕ちるのは時間の問題じゃ。

最後の仕上げとして、貴様から我を求めさせようと思ったが……。

二週間も耐えるとは、なかなかがんばるのう。

しかし……、

そろそろ限界じゃろう。

どうする？

我に忠誠と愛を誓うなら、貴様の大好きな魔王様の極太ちゃんぽをいれてやるぞ。

クク……。勇者とは難儀なものよのう。

早漏よわちんぽからは我慢汁ダラダラ垂れ流して、

淫乱ケツマンコをヒクヒクさせておるくせに。

つまらぬプライドとやらで、意地を張るとは。

そんなところを我は見込んだのじゃが……。

しかし、そろそろ素直になってほしいものじゃ。

そうしたら、極上の快感を与えてやるのに。

ハハ、そうか。

さて、どこまで耐えられるかの。

私の左手でケツまんこをいじりながら、右手で乳首をつままれたら、
……どうなってしまうのじゃろうな。

すっかり感じやすくなった、勃起乳首を……、
きゅっ。

くに、くにくに、くにくにくに……。

ほほう、腰が上がってきておるぞ？

気持ち良いのう。

れろお、れろれろ、じゅるう、じゅっ、じゅるううう……。

ケツマンコ、トロトロになってきたな。

二週間もちんぽをいれてもらえなくて、限界なんじゃろ。

淫紋だけではなく、子宮まで宿す身では辛かろう。

腹にある淫紋の影響で感度と性欲が淫魔並みに増強され、さらには子宮と連動して、
メスとしての本能まで植え付けられているはず。

我の子を孕みたくて孕みたくて、仕方ないのではないか。

想像してみよ。

マン汁を溢れさせているこの雌穴に、私のふとーいちんぽがぶち込まれるところを。

前立腺押し潰されながら、じゅぽじゅぽとかき混ぜられ、子宮口を何度もノックされて、
連続メスイキ……♡

休む間もなく突き上げられ、子宮口は精子を求めてどんどん下がってくる。

姫も仲間も世界も、自分が勇者であることさえも、

何もかも放棄して、完全屈服絶頂♡

気持ち良いじゃろうなあ。

その瞬間が、もうすぐそこに迫ってきておるぞ。
貴様が「ちんぽをください」と懇願さえすれば、
メスとして最高の快感を与えてやる。

あえいでばかりでは、どうしたいのか分からぬぞ。
どうするのじゃ。

まだ我に抗うのか、それとも……。

なんじゃ……？

我の下着を口で脱がすなんて、ずいぶん淫らな真似をする。
まさか、貴様……。

おっ、おおっ、急にちんぽをくわえおってっ、
このっ、どすけべ勇者め……っ。

はあっ、どうした、我には屈しないんじゃないやなかったのか。
敵の眼前に、ひざまづいて、ちんぽをくわえ込むなんてっ、はあ、はあ、
勇者のすることではないぞ。

……クッ、アハハ。

ハア、ハア、ハア、フツ。

ようやく堕ちたな。

いいぞ。

貴様の口だけで我をイカせることができたなら、
お望み通りいれてやる。

んん……っ。

ん、ああっ、はう、いい……っ、
もっとしつかり舌を使って、喉の奥までくわえ込むんじや。

ああ……っ、はぁ……っ。

う、ああっ、ハア、ハア……ッ。

いい気分じや。

いつも我を罵る生意気な貴様の舌が、我のちんぽを這い回っておる。
しかも、我に命令されて仕方なくではなく、自ら進んで……っ。

ふう、ふう……っ。

ん、くう、んんっ、いいっ、感じるぞ……っ。

はぁ、はぁ……っ。

う、いい、いいぞ、もっと早く口を動かせ……っ。

う、あ、もっと、もっとじゃっ。

ええい、もういい、我が動かしてやる。

お、おおっ、あ、う、はぁ、……っ。

口まんこをオナホ代わりに使われておるくせに、

ちんぽがほしそうなメス全開の顔をしておって。

変態どマゾ勇者め……っ。

こんな有り様じや、世界どころか、

姫も仲間も救えぬな。

フ……っ、もうちんぽのことしか考えられぬか。

フフ、あ、ああ……、いいっ。

我はさいっこうに気分がよいぞ、勇者よ。

ああ、はあ、はあ……っ。

こんなにも気持ちが高揚するのは初めてじゃ。

う、あ、ああ、はあ、はあ……っ。

そろそろイキそうじゃ、あ、う、はあ……っ。

はあ、はあ、はあ、はあ、んっ、ああっ、

貴様の口の中に、私の精液を注いでやる。

う、口をすぼめておれよ……っ。

ああっ、でるっ、んっ、イクぞ、全部受け止めろ、ん、あ、ああ、はあ、う、あ、イク、イク、でる、あ、ああっ……！！

んん、はあ、はあ……っ。

全部飲み込むのじゃぞ。

一滴でもこぼしたら、褒美はやらぬからな。

口を開けよ。ちゃんとザーメンを飲めたか、我が見てやる。

もっと大きくじゃ。

よし、全部飲んでいるな。

これなら、褒美をやってもよさそうじゃ。

そう慌てるでない。

今、枷を外してやる。

ほれ、外したぞ。

どうするんじゃ？

くっ、くく、ふっ、フハハハハハ！

絶対に魔族なんかには屈しないとあれだけ豪語しておったのに！

まさか自ら大股を開いて、ちんぽをいれてくださいと懇願するとは。

とんだ淫乱勇者様じゃな。

ああ……っ、ゾクゾクする。

興奮しすぎて、ちんぽが痛いぐらいじゃ。

貴様を勇者と崇めていた人間どもにも、

我に媚びている今の姿を見せてやりたいものじゃのう。

急かさずともよい。

ケツ穴よわわ淫乱勇者様のだあいすきな、

つよつよ魔王ちんぽをいれてやる。

ありがたく受け入れよ。

う、あ、……っ。

いれただけで絶頂したのか。

二週間ぶりのちんぽは、そんなにうまいか。

はあ……っ。

貴様のアナルが我のちんぽを放してくれぬな。

ん、はあ。きゅうきゅう吸いついて、媚びてくるわ。

キス……？

まさか貴様から求めてくるとはな。

ああ、してやる。

魔族にとつての口づけは、たった一人への愛を誓う契（ちぎ）りの証（あかし）。

これより貴様、……いや、お前は、もうただの性奴隷ではなく、我の妻となるのじゃ。

自ら夫のちんぽを求め、每晚犯され、我の子をなす、いとしく哀（あわ）れな妻。

大魔王リリス・ローデルハートの妻となったお前は、

他の人間のように年をとることもなく、我と共に永久（とわ）の時を生きるのじゃ。

永遠の愛を誓う口づけをしよう、わが妻よ。

ちゅ。

ちゅううつ、ちゅぱつ、ちゅう、ちゅううつ、ちゅつ、じゅつ、じゅるつ、ちゅううつ。

どうじゃ、大魔王の妻になった気持ち。

下腹部の赤い淫紋の周りがピンク色に色づき、発光しておるじやろう。

それが我の妻になった証じゃ。

もう後戻りはできぬぞ。

そうか、嬉しいか。

可愛いやつじゃ。

はあ、はあ。ん、あつ。

尻穴から結腸まで、

すっかり我のちんぽのカタチになりおって。

お前はもうちんぽなしでは生きていけぬな。

安心せい、いとしの妻を見捨てるものか。

毎日毎晩、このどすけべまんこにちんぽをハメてやる。ん、はあ、んくつ。

我の妻となったお前は、世界の平和を守る必要もないし、戦わずとも良い。

はあ、はあ、はあ。

我の庇護（ひご）の下（もと）で暮らし、ただ我の腕の中で愛され、

まんこにちんぽをぶち込まれて喘いでいればよいのじゃ。

幸せじやろう？

たっぷり可愛がつてやるからな。

我の愛とちんぽは、妻であるお前ただ一人だけのもの……。

ああ、よそ見などせぬ。

お前だけに、たっぷりと愛もザーメンも注ぎ込んでやる。
人の子であるその身で、余すところなく受け止めよ。

ちゅうっ、ちゆるっ、ちゅっ、ちゅぱっ、ちゅっ、じゅるうっ、
じゅっ、ちゅうう。

ん、はぁ、はぁ……っ。

そろそろイキそうじゃ……っ。

メスイキしっぱなしの妻まんこが、夫ちんぽから精液を搾りとりうとしてくるからの。

まんこの中に射精して良いのか？

お前には子宮を付与しておるから、

男の身体とはいえ、妊娠してしまうかもしれないぞ。

いや、確実に妊娠するだろうな。

子宮口まで簡単に届く我的長くたくましいちんぽから大量の精子を流し込まれたら……。

……ハハハ！ そんなに我的子を生みたいのか。

愛しい妻のリクエストには応えねばな。

お前の要望通り、ケツマンコの奥にたっぷり精子を出して、

我的子種を子宮に届けてやる。

くう……っ、耳が痛くなるほど喘ぎおって。

声も、顔も、ケツマンコも、我に媚びて……っ。

ハア、媚びっ媚びの淫乱妻め。

うっ、ああ、はぁ、イク、イク、出る、イキっぱなしの妻のまんこに搾り取られる……っ。

ん、あ、ハア、ハア……っ

それ、生むのじゃ。

無様にメスアクメをキめ、恨んでいた魔族の子を生め。ハア、ハア、ハア。

生め、生め、イケ、イケ、イケ。生め生め生め生め、おっ、おお、いぐっ、でる、
いぐ、いぐ、おっ、おおっ、んっ、んああああっ

ちゅっ、ちゅううつ、ぢゅっ、ちゅう、じゅうつ、ちゅ、じゅる、
じゅっ、ちゅうう。

ハア……っ。

たっぷりと注ぎ込んでやったぞ。

今頃我の子種がお前の子宮に向かっておるじやろう。

遠慮せず孕め、わが妻よ。

【トラツク5 腹ボテセックスをたのしむ勇者】

ハア、ハア、ん、……っ

んっ、そう興奮するな、少し落ち着け。

今のお前は妊夫（にんぷ）だということを忘れたのか。

我とお前の子じやから大丈夫だとは思うが、あまり激しくすると腹の子にさわるぞ。
ほどほどにな。

ん、ハアハア、こら……っ

言うことを聞かぬか。

無事に子を産んだら、嫌というほど激しくしてやる。

そうじゃ。えらいぞ。

ゆっくりな。

まったく。腹に子を宿しているというのに、淫乱な母じやのう。

こんなに大きな腹で自ら我にまたがり、みだらに腰を振って、きっと赤子も驚いておるぞ。

のう？ 母がこうもちんぽ狂いでは、そちも困るじやろう。

おお、動いたぞ。

赤子も腹の中でそうだと言っておる。

人間どもはみんな淫乱じゃのう。

姫も、出産直前まで夫のちんぽを求めておったらしいぞ。

おお、そうじゃ。

今朝方、お前の元婚約者が無事に子を産んだそうじゃ。

まことめでたいのう。

祝福したければ、会いに行ってくるがいい。

ん？ 我と片時も離れたくない？

フフ、可愛いことを言う。

それなら、一緒に行くか。

キスならいくらでもしてやる。

ほれ、こっちにこい。

愛（う） いやつめ。

ちゅっ。

ちゅぱっ、ちゅう、ちゅう、ちゅるっ、ちゅううう、じゅっ、ちゅっ、ちゅうう。

そんなに好き好き連呼せずとも、聞こえておる。

ああ、我も愛してる。

当然だろう。

我の子を孕んだ妻を愛し、守り抜くのが夫である我の役目。

その代わり、お前は硬い男の腹で出産まで赤子を育て、
産んだ後はすっかり敏感になった乳首から母乳を出すのじゃ。

頼んだぞ。

お前にしか出来ぬことじゃからな。

母としてお前の先輩となる姫や仲間たちに話を聞いておくと良い。

仲間たちの出産も、もうじきじゃからな。

その次は、いよいよお前が産む番じゃぞ。

どうじゃ？ 楽しみだろう。

フフフ、我も楽しみじゃ。

ちゅうつ。

ちゅつ、ちゅうう、ちゅつ、ちゅうう、ちゅうつ、じゅつ、じゅるつ、
ちゅうう。

はあ……。

仕方ないな。少しだけじゃぞ。

下から突き上げてやるから、しっかり我につかまっておれ。

ん、はあ、お前もすっかり魔王の妻らしくなったの。

淫紋の刻まれた大きな腹を揺らし、

どすけべまんこで夫のちんぽをしっかりとくわえこんで。

ハア、ハア、この調子じゃ、一人目を出産したら、すぐに次の子を孕みそうじゃな。んっ。

おっ、はあはあ、こら、そんなに激しく腰を振るなど言っておるだろうが。

ん、はあ、はあ、さすが元勇者様の身体は頑丈じゃな。はあ……っ、はあ……っ。

子を孕んでも、ケツマンコの筋肉は少しも衰えを知らぬ。我のちんぽをしめつけて、
く、ううう、んっ、おっ、おおっ、ハアハア、んっ、あ、あ、あっ、

精子が上がってきたぞっ、はあ、はあ、

んおおっ、いく、いぐ、おっ、おお、おおおっ、あ、はあ、出る、出すぞっ、
妊娠中の妻のまんこに、出る、あ、おおっ、いく、いぐっ、あ、あっ、

あああああ……っ！！

まったく……

またお前につられてしまった。

身体は辛くないか？

何かあったら、すぐに言うのじゃぞ。

愛してる。

大切なわが妻と子よ。